

レール凹凸連続測定装置

公益財団法人鉄道総合技術研究所

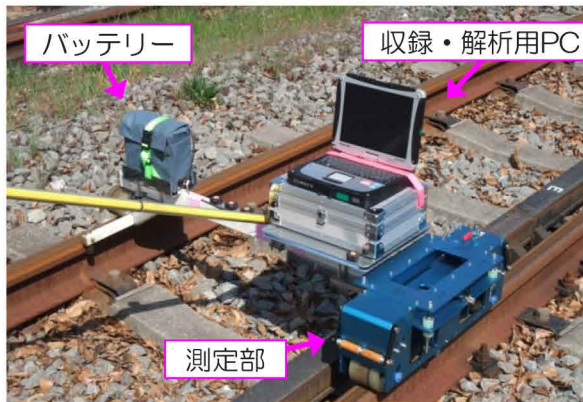
軌道技術研究部

レール波状摩耗除去のためのレール削正作業を支援

鉄道では、車両の走行に伴って、主に曲線区間のレールに波状摩耗と呼ばれる周期的なレール凹凸が発生することがあります。このレール波状摩耗は、軌道の劣化を助長したり、騒音・振動の発生原因となることから、鉄道総研では、レール凹凸を連続的かつ簡易に測定可能な可搬型のトロリータイプの測定装置を開発しました。

【特徴】

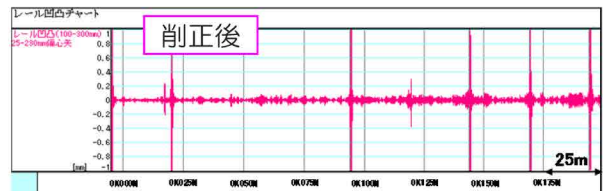
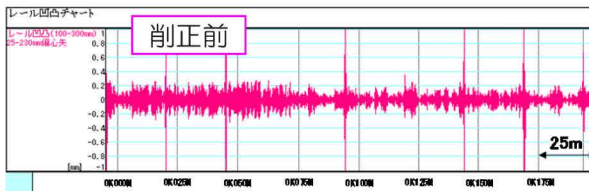
- 本装置は、レーザー変位センサを偏心矢配置したトロリーであり、レール波状摩耗などの微細なレール凹凸を詳細かつ連続的に測定できます。
- 組立式となっており、測定現場まで容易に運搬できます。
- 載線後は、手押しで軌道上を移動し、装置の移動速度に依存しない測定が可能です。
- 本装置には、専用のPCとソフトウェアが付属しており、現場で即時にレール凹凸の評価・分析が可能です。
- レール削正前後に本装置でレール凹凸を測定することにより、削正作業の工程を事前に検討したり、削正後の仕上がり確認を迅速に行うことが可能であり、レール削正作業の効率化、および適切なレール凹凸管理を支援することができます。



測定装置の外観



付属のソフトウェアの操作画面



レール削正前後のレール凹凸の測定結果の一例